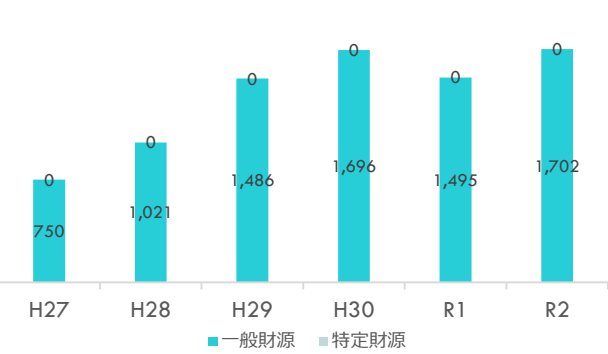
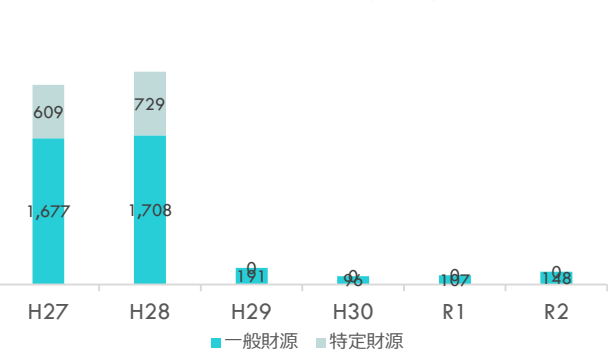


危機管理課

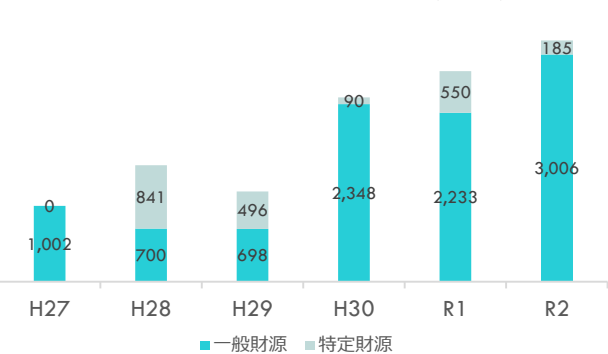
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)



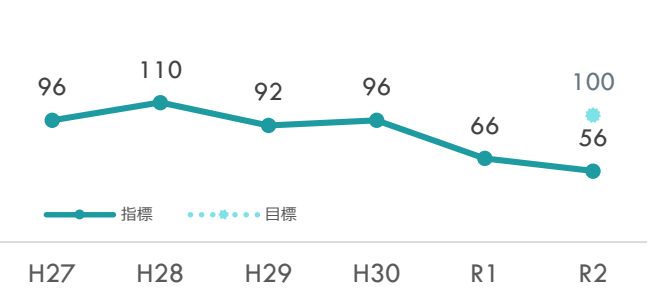
現状と課題

本市の交通事故については、事故発生件数はほぼ横ばいですが、高齢者や児童・生徒など交通弱者への配慮が必要です。このため、運転者の交通マナーの向上を図っていくとともに、歩行者自らも事故に合わないよう交通安全意識を高めていくことが求められています。

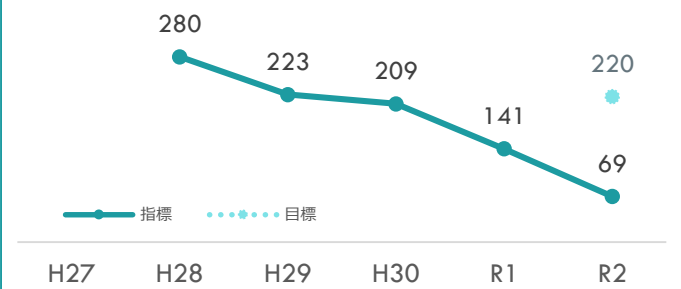
また、近年の犯罪については、空き巣、たかり、ひったくりのほか、高齢者を対象とした振り込め詐欺や児童・生徒を巻き込んだ痛ましい事件が全国各地で発生しており、誰もが被害者となる可能性があります。そのため、まずは市民一人ひとりが「自らの安全は自らが守る」という基本姿勢を認識することが重要であり、その上で地域活動を推進し、さらに関係機関と連携することで、地域ぐるみの防犯活動を高めていく必要があります。

成果指標

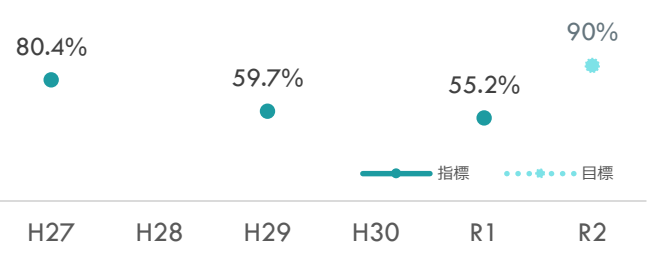
交通事故発生件数(人身)(件)



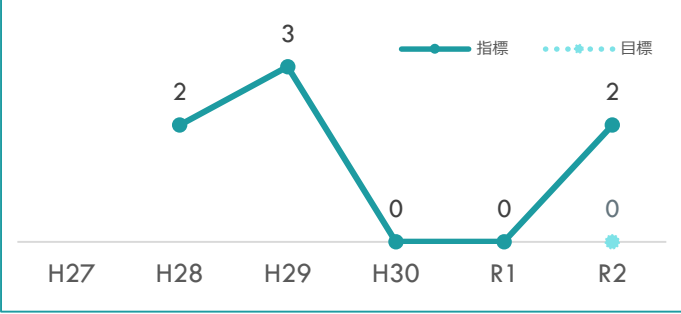
刑法犯罪の発生件数(件)



地域の防犯活動等に協力している市民の割合【市民意識調査】(%)



特殊詐欺の被害件数(件)



指標の説明・・・

各指標の数値が目標値に近づくほど、身近な安全・安心対策の充実が図られます。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
交通安全意識の向上	交通安全意識の啓発	交通安全教室の開催、交通パトロール	臨時的経費 経常的経費	75万円	—	秋の交通安全県民運動における街頭啓発。 毎月10日・25日に交通パトロール実施。	交通事故（人身）発生件数 R1年度 66件 → R2年度56件
交通安全対策	交通安全啓発事業	通学路等への反射幕設置	経常的経費	6万円	—	地区へ設置の依頼を行った。 (8ヶ所)	交通事故（人身）発生件数 R1年度 66件 → R2年度56件
防犯の推進	犯罪抑止機能の向上	特殊詐欺対策機能を有する電話機購入に対する助成	臨時的経費	4万円	—	8件の申請があり、助成を行った	令和2年度は2件の詐欺事件が発生しているが、対策機能を有した電話機の設置をした申請者への不審な電話は激減している。（助成確定後の聞取りによる）
防犯施設の整備	防犯意識の向上	防犯灯のLED化に対する助成	普通建設事業費	592万円	90万円	66団体への助成を実施	381灯の防犯灯がLED化され、18灯の新規設置が行われた。
安全な消費生活の確保	消費生活推進事業	消費生活相談員の育成	—	0万円	—	県などが開催した研修会に参加 (4件、6講義)	69件の苦情相談があったが、いずれも相談者の納得する結果に至っている。

施策の評価

一次評価者	役職	危機管理課長	交通対策については、新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもや高齢者の交通事故防止のための交通安全教室の開催が出来なかったが、街頭啓発活動や毎月10日・25日に交通パトロールの実施を行った。地域防犯についても、警察。地域・市が連携して、防犯体制をとり、防犯灯のLED化や新規設置への補助、防犯カメラの維持管理に努めた。消費生活については、広報活動や相談体制の充実を図っている。交通事故発生件数（人身）や刑法犯罪の発生件数も減少傾向にあり、引き続き警察署等の関係機関と連携し、地域ぐるみの防犯活動を高めていく必要がある。
	氏名	青木 克行	
二次評価者	役職	市長公室長	高齢者を狙った特殊詐欺が後を絶ちません。被害に遭わないよう高齢者への広報活動や相談体制の拡充を行ってください。特殊詐欺対策機能付き電話機の購入補助制度の周知も行ってください。 他県において通学路での痛ましい事故が発生しました。教育委員会、建設部、備前警察署などと協力して、通学路の安全点検を実施し、危険個所の解消を進めましょう。
	氏名	佐藤 行弘	